

苦痛のない上部消化管内視鏡検査をめざして
～ 咽頭麻酔の検証～

○ 福島京子¹⁾、塚原里美¹⁾、高根百合子¹⁾、
安達清子¹⁾、佐藤寿子¹⁾、高橋和由¹⁾
後藤光弘¹⁾、星 健也¹⁾、坂本弘明¹⁾、鈴木
美保子¹⁾、鈴木 仁¹⁾、小原勝敏²⁾

1) 公益財団法人福島県保健衛生協会

2) 福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部

【はじめに】福島県保健衛生協会（以下協会と略す）では年間約2,000件の上部消化管内視鏡検査（経口法）を実施している。上部消化管がんの多くは無症状のまま進行するので早期発見、早期治療のためにも内視鏡検査は重要である。しかし、経口法による内視鏡検査は咽頭反射による嘔気を来すことがあるため苦痛を感じる受診者が多い。このような状況をできるだけ回避し、受診者に安心、安全で

負担の少ない内視鏡検査を提供するために3つの麻酔法を用い、どの麻酔法が最も苦痛なく実施できるかを検証したので報告する。

【方法】期間は平成24年9月から平成25年2月までの6か月間に当協会で行った内視鏡検査を実施した男女172名を対象とした。方法は①キシロカイン®ビスカス2%（以下ビスカスと略す）氷状のみ、②ビスカス氷状＋キシロカイン®ポンプスプレー8%（以下スプレーと略す）を2回噴霧、③スプレー5回噴霧のみの3つの麻酔法を用い、麻酔の方法、麻酔の効果、内視鏡検査全体の評価、前回の内視鏡検査と今回の内視鏡検査の比較に関する4項目について3段階評価（楽だった、ふつう、つらい）でアンケート調査を実施した。内視鏡検査実施にあたっては手技に差が出ないように同一の医師が担当した。

【結果】麻酔法自体が楽であったと答えた受診者はビスカスのみで実施した56名中31名（57%）で、ビスカスとスプレーでは59名中

46名（78%）、スプレーのみでは57名中48名（84%）であった。また、麻酔の効果については、ビスカスのみの麻酔で実施した受診者のうち、麻酔が効いていたと答えた者が56名中22名（48%）、ビスカスとスプレーでは59名中45名（76%）、スプレーのみでは57名中45名（79%）であった。ビスカスのみ実施した受診者のうち、前回の内視鏡検査と今回の内視鏡検査でその評価が今回の方が楽だったと答えた者は56名中22名（37%）、ビスカスとスプレーでは59名中42名（71%）、スプレーのみでは57名中38名（67%）であった。各麻酔法で全体の評価が「つらい」と答えた方の状況を見てみると、前回、内視鏡検査でつらい経験をした方がビスカスでは10名（77%）、ビスカス＋スプレーでは8名（66%）、スプレーのみでは8名（62%）であった。

【まとめ】今回、内視鏡検査実施時の咽頭麻酔について検証した結果、ビスカスのみより

も、スプレーを加えた方が麻酔の方法、効果さらに内視鏡全体の評価に有効であったことがわかった。よって、私たちスタッフは受診者の精神的・身体的苦痛を少しでも緩和できる内視鏡検査を提供できるよう、今後も日々努力して行きたい。